

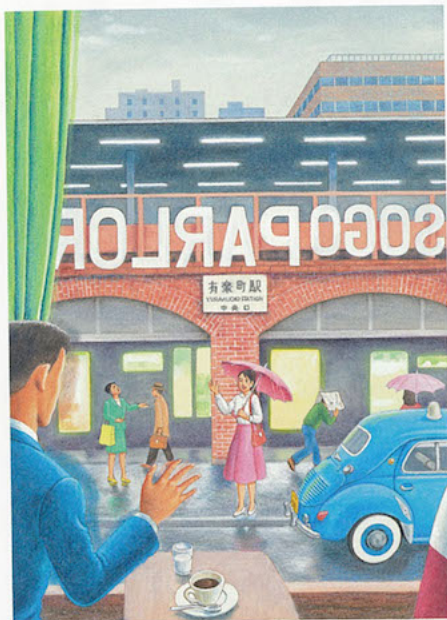
## 収録絵柄一覧

テレビやラジオ、喫茶店や街角で繰り返し耳にし、  
 思わず口ずさむほど人々の心に浸透した名曲の数々。  
 今もなお聴く人の胸を打ち、当時の記憶を鮮やかによみがえらせます。  
 原画は透明水彩絵の具とガッシュ（不透明水彩絵の具）で描かれていますが、  
 好きな画材を使って好きな色で彩色を楽しみ、オリジナルの美しい絵に仕上げてください。  
 塗り絵の部分は、塗りやすい画用紙を使用していますので、ミシン目から切り取ってそのままお使いください。

No.1 あずさ2号



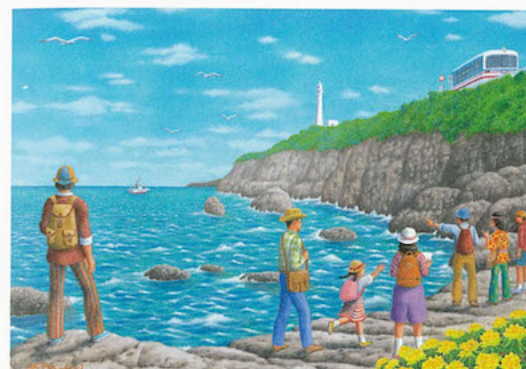
No.2 有楽町で逢いましょう



No.3 北国の春



No.7 岬めぐり



No.8 東京だヨおっ母さん



No.9 <sup>コスモス</sup> 秋桜



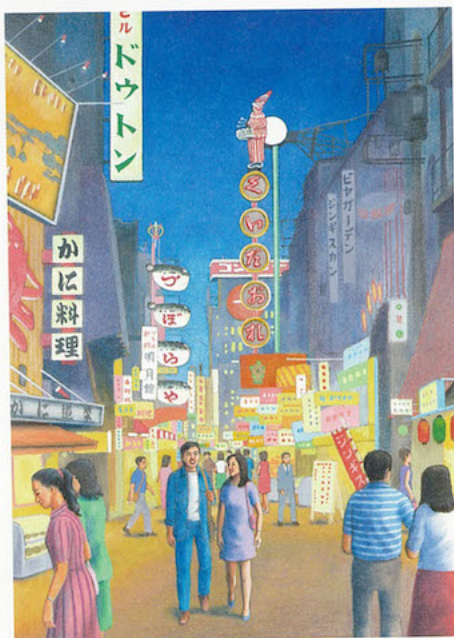
No.4 小さなスナック



No.5 さくら



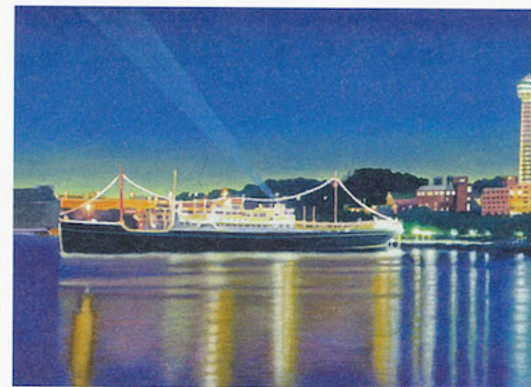
No.6 大阪ラブソディー



No.10 神田川

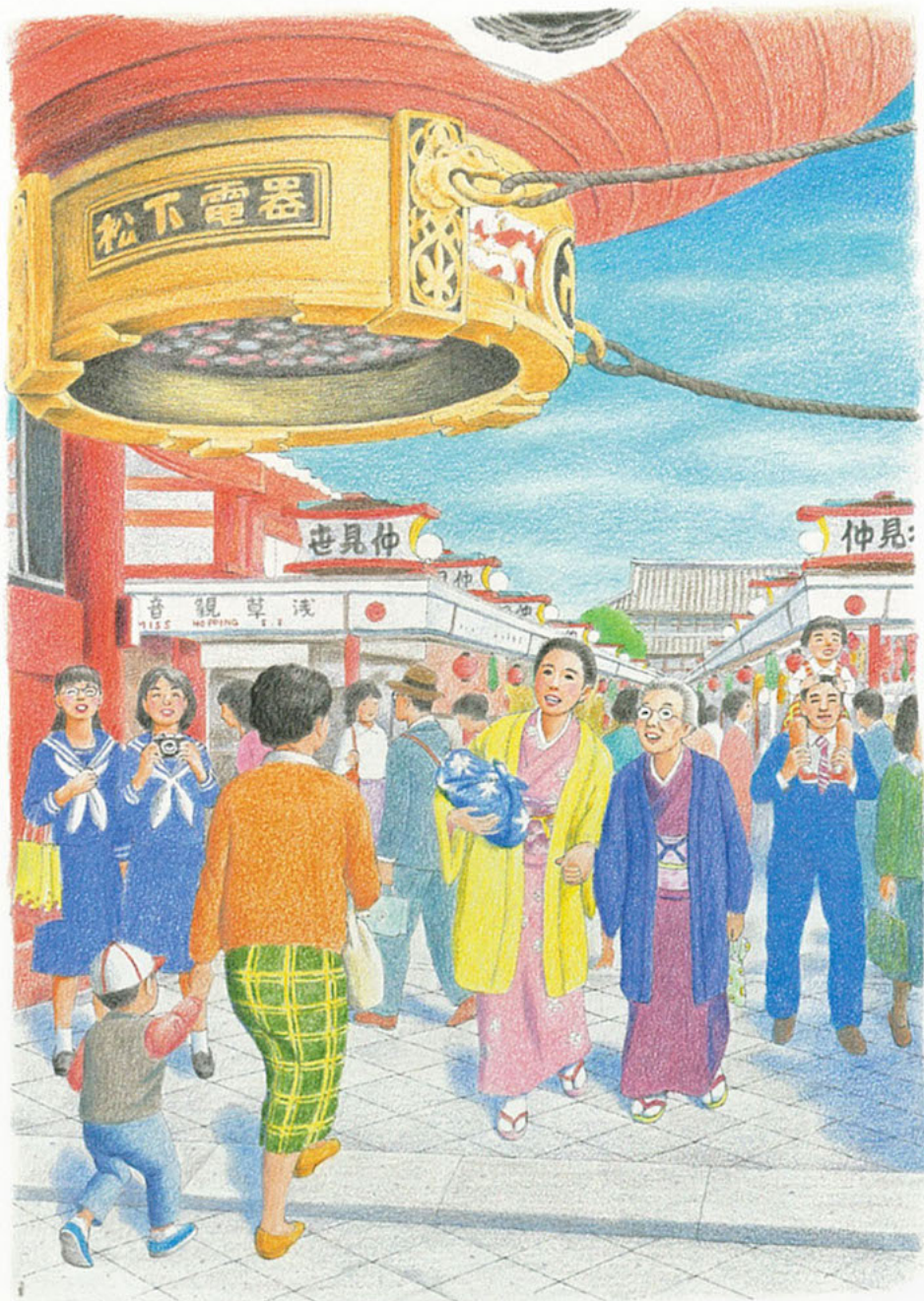


No.11 ブルー・ライト・ヨコハマ



塗り絵は、  
切り取って





No.8 「東京だヨおっ母さん」

# 色鉛筆で印象的な場面を塗る

時代を彩った昭和の名曲に聴き入ると、歌に登場する人たちそれぞれのドラマや印象的な場面が浮かんできます。ここでは、作品を生き生きと仕上げる塗り方をご紹介します。

## ワンポイントアドバイス

ほおは丸みや血色の良さを意識して、濃いピンクなどをさすと、明るい表情になります。



晴天の日の影を塗る際、グレーや黒ではなく、紺や紫などブルー系を使うと透明感のある明るい仕上がりになります。



## 1 人物の表情をとらえて描く



うすだいで肌を塗り、うす茶色などで陰影を描きます。



ほおをピンク系で塗った後、首元にできる陰影は水色で塗ります。



よく尖らせた黒の色鉛筆で、眉毛と目、メガネを塗ります。

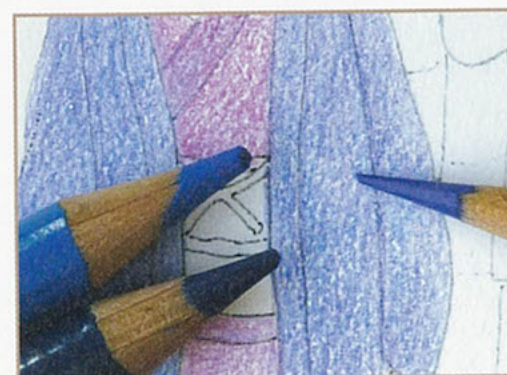


髪は灰色で塗ります。生え際から毛の流れを意識して塗りましょう。

## 2 布の質感を意識して着物を塗る



着物は、ピンクや紫で塗った後、陰影を水色で塗ります。



羽織は青や紺色を使って塗ります。

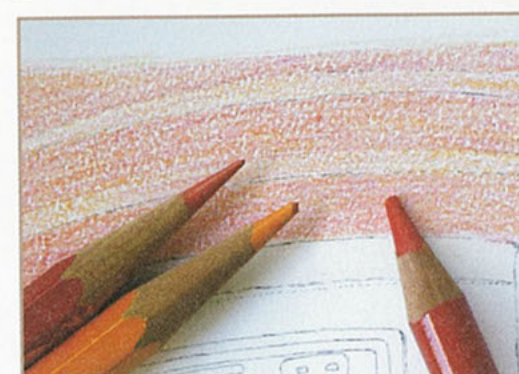


帯はうす紫や濃いピンクで塗り、帯締めは黄色で塗ります。

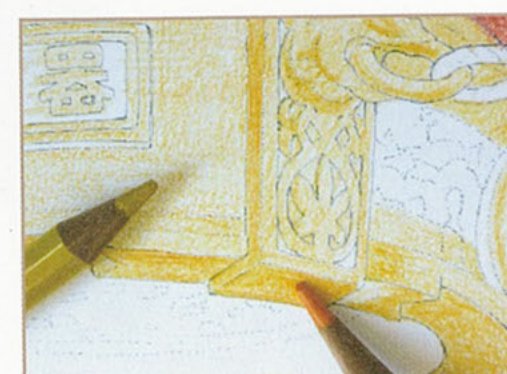


足袋は紺色で陰影を塗り、だいでぞうりを、赤で鼻緒を塗ります。

## 3 建物などの周囲を塗って仕上げる



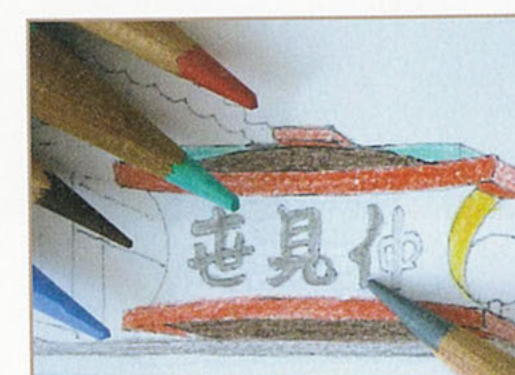
大提灯の火袋は赤やだいで塗ります。形に沿って一方向に塗りましょう。



提灯の下輪は黄色、だいで塗り、灰色で陰影を描きます。



文字の周りや飾りの模様は、よく尖らせた濃い灰色で立体感を意識して塗ります。



看板は水色で下地を、灰色で文字を塗った後、赤や茶色で周りを塗りましょう。





**No.1 あずさ2号** 春まだ浅い信濃路。中央アルプスの山々を背景に昭和50年代のあずさ2号が様々な思いを乗せて疾走します。手前の花は「シナノタンポポ」です。山々の残雪にこだわって描きました。



